

チャイルド・ファンド・ジャパンだより

[スマイルズ] 2010年8月NO.20

SMILES

<http://www.childfund.or.jp>



シリーズ“食べる”

9

—サマーキャンプでの食事—

キャンプに参加したチャイルドたちが家から持ち寄った材料で作った食事。

食材は決して豊かではありませんが、

調理してくれたお母さんたちの愛情がこもっています。

そして何よりも友達と一緒に木の下でワイワイ、最高の味です。

写真:センター30 (ギマラス島)

ChildFund
Japan

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、
アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、
家族と地域の自立を目指した活動をしています。

特集

新しい自分を見つけよう!

マンゴー畑の
「サマーキャンプ」

特集

新しい自分を見つけよう!

マンゴー畑の「サマーキャンプ」

皆様、暑い夏をどのようにお過ごしでしょうか?フィリピンの夏は日本と違い、4月と5月です。学校が夏休みを迎えるこの時期、センターでは、チャイルドたちのために社会活動や補習などを行います。そうした活動の中でも、野外での経験を通して新たな人間関係を築くことができる「サマーキャンプ」は、多くのセンターが実施します。センター30のサマーキャンプ取材しました。

(事務局長 小林 毅)

フィリピン

【センター30】

チャイルド・ファンド・ジャパンを通じたスポンサーの皆様のご支援により、1996年から活動しています。ギマラス島のサンベドロ村やサンミゲル村など5カ村に住む260人のチャイルドたちと彼らの家族が、教育や保健、職業訓練、生業資金の貸し付けや住民組織作りなどのセンターのプログラムに参加しています。



会場はマンゴー畑

真夏のギマラス島は日中気温が35度を超え、乾期でもあるこの時期は全てが乾ききっています。そんな中、活動地域にあるマンゴー畑を会場として、サマーキャンプが3泊4日で開催され、ハイスクールに通う80名のチャイルドたちが参加しました。キャンプのテーマは「新しい自分を見つけよう!」です。

数十本のマンゴーの大木が林立する広い畑は地主さんが無償で貸してくれました。その一角に、チャイルドたちの住む地域毎に、竹とビニールシートでテントが作られます。会場には水道がないので、お手洗いや水浴びは近くの家々の設備を借ります。チャイルドたちは、家庭の状況が許す範囲で米、野菜、焚き木を持ちよります。それらを使ってチャイルドの親たちがボランティアで食事を準備します。

キャンプの午前中は住んでいる地域対抗のスポーツやゲームを楽しみます。午後は、いくつかのテーマに沿って皆でディスカッションをします。そして夜は、合唱やダンスのコンテストと、盛りだくさんのプログラムが用意されています。



マンゴーの大木が林立する畑にテント(左側)が作られています



地域対抗のゲームを楽しむチャイルドたち

自分を知る

3日目の午後、「自分を知る」というテーマで、セッションが行われました。まず参加者は一人ひとり静かに自分を見つめ、紙の半分に自分の長所を、もう半分に短所を書きます。それを胸にピンで留めて、次に白紙を背中に留めます。今度は、他の参加者からみた自分の長所と短所を背中中の紙に自由に書いてもらいます。すでに3日も一緒に生活しているので、自分と同じ地域の仲間だけでなく、他の地域からの参加者にも書いてもらうチャイルドもいます。

セッションの最後に、2枚の紙を服から外して、自分から見た長所・短所と、他の参加者が書いてくれた長所・短所を見比べ、気づいたことを発表し分かち合いました。「自分で長所として書いたことを他の参加者も書いてくれたことで、自分の長所を再確認できた」と発表するチャイルド、中には「短所として思いもよらないことが書いてあって、それまで意識していなかった自分の短所に気づいた」と言うチャイルドもいました。



他の参加者から自分の長所と短所を背中中の紙に書いてもらいます



自分の長所・短所について気づいたことを分かち合います

新たな機会を

貧しさの中で生活している子どもたちは、夏休みに様々なことを経験する機会が限られています。多くの子どもたちは、2ヶ月もある夏休みを家の手伝いと友だちと遊ぶことだけで過ごしてしまうと言います。センターが、この時期にチャイルドたちのために社会活動や、勉強の遅れを取り戻す補習などに力を入れる理由はここにあります。中でも、普段の生活では得られない「キャンプ」という機会を提供することで、チャイルドたちは、「野外生活を楽しむ」、「新しい自分を発見する」、「新たな人間関係を築く」、「自分の可能性を見つける」ことができます。

センター長のリーさんは、「サマーキャンプは、日常生活から離れて多くの人と交わり、客観的に自分を見つめ直すことができる場」と、その意義を強調します。確かに、チャイルドたちは、普段は地域を越えて深く交流する機会はそう多くはありません。このキャンプでは、4日間寝食を共にし、様々な活動と一緒に参加することで、今までなかった人間関係を築く機会がチャイルドたちに提供されています。私にはひとりのチャイルドの「新しくできた友だちが、性格を、明るいと長所に書いてくれました。そのおかげで自信が湧いてきました」という分かち合いが印象深く残りました。

キャンパー・オブ・ザ・イヤー（今年の最優秀キャンパー）

サマーキャンプの閉会式では、参加者の投票で選ばれた「今年の最優秀キャンパー」として、キムピー君とエミリーさんが表彰されました。キムピー君がどんな生活をしているのだろうと、家を訪問しました。車の通れる道から10分ほど小道を登った場所に、キムピー君一家が暮らす、竹、ニッパヤシの葉、そしてトタン板でできた家がありました。家には電気は引かれていません。乾期で農作業ができないので、お父さんは家族の生活を支えるために出稼ぎに行っており、夏休みを家族で楽しむことなど全く考えられない状況です。キャンプがなければ、確かに夏休みは家事の手伝いや友だちと遊ぶことで過ぎていってしまったでしょう。キムピー君にサマーキャンプの感想を聞くと、「普段は会うことの少ない他の地域のチャイルドたちと友だちになれて良かった」と言います。また、「最優秀キャンパーに選ばれたということは、恥ずかしがり屋な自分をキャンプ中に少し克服できたからということかな?」と言って笑いました。サマーキャンプを通して、「新しい自分を発見する」、そんな貴重な経験をキムピー君も得たようです。



「今年の最優秀キャンパー」として表彰されたエミリーさん(左)とキムピー君(右)



竹、ニッパヤシの葉、そしてトタン板でできた家。家には電気は引かれていない。



「恥ずかしがり屋な自分を少し変えられた」と語るキムピー君(右はお母さんと妹)

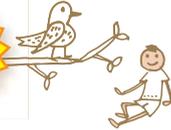
取材後記

事務局長 小林 毅

取材をしながら、小学生の頃、自分が参加した最初のキャンプの体験を思い出しました。初めてのキャンプ経験にワクワクしながらも、はたして寝袋で眠れるのかという不安も感じて参加したキャンプでした。キャンプを終えてみると、不安は消え、達成感と共に少し自信がついたように感じたものです。貧しい生活を強いられるチャイルドたちに開かれている機会は限られています。スポンサーの皆様方の支援を通して実施されるキャンプに楽しんで参加しているチャイルドたちに出会い、かれらの成長を実感することができました。

ネパールからナマステ!

vol.2



ナマステ: 初め: ニル語で 語で [こはに] ちは]

私のスポンサーさんへ ～チャイルドから初めてのお手紙～

4月から始まったネパールのスポンサーシップ・プログラム。今回は、スポンサーさんが送ってくださったお手紙に、チャイルドがどのようにお返事を書いているのかをご紹介します。

東京事務局にお送りいただいたお手紙には、日本語の場合英語訳をお付けしてネパール事務所に送ります。そこから支援地域のラメチャップ郡にあるパートナー団体(RBPW)事務所にお手紙が届けられると、今度はネパール語の訳を付けて、スタッフが学校やチャイルドの自宅に持っていきます。生まれて初めて自分宛の手紙を受け取ったチャイルドは大喜び。お手紙を読んだらすぐにお返事を書きます。

学校の国語の授業では作文がなく、既定の文章を書き写すだけなので、子どもたちは自分の考えを自由に文章に表すことに慣れていません。チャイルドには自分で手紙を書くよう励ましていますが、1人で文章を書けない時は、チャイルドがスポンサーに伝えたいことをスタッフが聞いて文章にします。それをお手本に、チャイルドは手紙を完成させます。このように手紙を書くことは、子どもたちにとって自分自身を表現する良い機会となっているのです。親たちも読み書きのできないことが多いため、子どもが手紙のやり取りをするのを見て、とても誇りに思っています。

チャイルドたちは、スポンサーさんからのお手紙が届くのを楽しみにしています。日本語でも大丈夫です。どうぞ手紙を書いてみてください。ホームページの「支援者の方へ」には文例集もありますので活用ください。



学校の放課後、スポンサーさんへ一生懸命お返事を書くチャイルドたち

スリランカから アーユボーワン

vol.7



アーユボーワン: シンハラ語で「こんにちは」

スポンサーの木!

チャイルドからのお手紙に同封されている写真の中で、チャイルドと一緒に苗木が写っているのを見たことはありませんか?お手紙の中で苗木のことを書いているチャイルドもいるかも知れません。その苗木は「スポンサーの木」と呼ばれているものです。

チャイルドにスポンサーさんが紹介されると、チャイルド・ファンド・スリランカは、チャイルドに苗木を1本支給します。「一緒に大きく成長するように」と、願いつつそれを植樹します。苗木は、家畜や動物に荒らされないように、囲いで覆って、スポンサーの方のお名前を書いた札をつけます。大きくなったら実がなるようにマンゴーやレモンの苗木が選ばれます。



囲ってある苗木

チャイルド・ファンド・ジャパンがスリランカで支援を開始してから4年目になります。最初の頃、30センチほどの小さな苗木だったスポンサーの木の中には、大きく育った木もあります。チャイルドは、その木を見るたびに、遠い日本に自分のことを想ってくれているスポンサーの方を思い出さずして。



チャイルドの背を追い越して成長する
スポンサーの木(いずれもマンゴーの木)

お手紙で、スポンサーの木についてお尋ねになるのも良いかもしれませんね。

パラワン少数民族生活改善プロジェクト



フィリピン

- 協力期間: 2003年6月1日～2012年9月30日
- 支援対象: パラワン州ブルックスポイント町に住むパラワン族450世帯
- 協力団体: AMP-IPM*

(Augustinian Missionaries of the Philippines Indigenous Peoples Mission)

*カトリック修道会であるフィリピン・アウグスチノ宣教会が行う社会事業部門。少数民族パラワン族の文化継承、保健・栄養改善・教育活動、環境保護活動を行う。

- 【ネパール】
- ・オカドゥンガ地域病院プロジェクト
 - ・アマルフル小学校建設プロジェクト
 - ・保健行政システムのキャパシティビルディングによるネパールの女性と子どもの栄養改善計画フォローアッププロジェクト
 - ・故細野雅央様からのご寄付による教育支援プロジェクト
- 【フィリピン】
- ▶ パラワン少数民族生活改善プロジェクト

パラワン族の自主管理・社会貢献に向けての能力開発

2009年、フィリピン政府の国家先住民委員会は同国の少数民族人口を約1400万人(全人口の約16%)と発表しました。そのうちパラワン族は4万人と推定されます。このパラワン族の生活を改善するため、第2期に引き続き、第3期が始まりました。第3期は支援地域としてマイニット村を含め150世帯が新たに支援の対象に加わりました。主な活動内容は以下のとおりです。

1. 幼児・成人教育

- 幼児に対する栄養、補食、医療などのサービス
- 成人教育では、識字教育以外にマラリア予防対策を含む保健教育、栄養指導、植林など森林保護に関する研修

2. ボランティア指導者育成

- 教員ボランティア、子どもへの伝統文化継承ファシリテーター、保健ボランティアの指導者育成

3. 研修やマニュアルの開発

- 保健ボランティア、パラリーガル・ボランティア、所得向上、環境にやさしい農業指導に関する実践的研修の開発

第3期初年度(2009年10月～2010年3月)は、各種ボランティア指導員育成研修、パラリーガル・ボランティアの育成研修、小規模ビジネス研修などが行われ、幼児には栄養、補食、医療などのサービスが提供されました。また蚊を媒体として感染するマラリアの予防対策として、感染検査の実施、保健ボランティアにより防虫効果を高めるための蚊帳の薬品処理の指導が行われました。



蚊帳の薬品処理を指導する保健ボランティア(右) 通常の蚊帳よりも防虫効果を高めることができる

*先祖から受け継いだ土地への権利を守り、環境保護を推進するための法律知識を備えたボランティア



つながり・ぶるじえくと
TSUNAGARI
PROJECT

～5周年記念プロジェクト～

報告会へいらしてください!

同封のチラシにもありますように、9月18日(土曜日)、原宿チャペルホールにて午後2時より(開場:1時30分)報告会を開催します。

フィリピンから元チャイルドなどのゲストを迎え、現地の状況報告や5周年記念映画の上映、ゲストとの交流やフィリピンの音楽の演奏や歌のプログラムなどを用意しています。

どうぞお知り合いをお誘いあわせのうえ、ご来場ください。

各地(名古屋、大阪、広島、熊本、福岡、札幌:日程順)での報告会の日時も決まりました。同封のチラシをご覧くださいのうえ、ぜひ会場までいらしてください。

チャリティコンサート

ハンドベルとヴァイオリンなどの演奏をお楽しみください。2011年3月13日(日曜日)の午後3時～4時半(予定)。場所は、青山学院ガウチャー記念礼拝堂です。詳しくは、次号のSMILESでお知らせします。

5周年記念映画を皆さん観てください!

完成間近!

以下の方法で新しく制作した映画をご鑑賞いただくことができます。

- ① 出前上映会
10月から2011年3月末まで、スタッフが上映機材持参でお伺いします。
- ② 自主上映会
自主上映会を企画してください。映画のDVDをお送りします。お知り合い、お友だちでご鑑賞ください。
- ③ 映画のDVD貸し出し
ご家族でご鑑賞ください。返送の際の送料はご負担願います。

いずれも詳細は、事務局までお問い合わせください。

〈電話〉 03-3399-8123

〈メール〉 childfund@childfund.or.jp



* ハロハロとはタガログ語(フィリピン語)で“いろいろ”“まぜこぜ”という意味です。
このページは読者の皆様からのリクエストや投稿などをもとに作るページです。

ハロハロのページ

「他のスポンサーの方と交流したい!」という声や、「どのような方が支援者にいるか知りたい」といった声をお寄せいただくことがあります。そこで、2010年度の「ハロハロのページ」は、ご支援くださる皆様をご紹介します。第2弾となる今号は、「スカイウィッシュ・チャリティー・プログラム」というユニークな方法でご支援くださるデルタ航空をご紹介します。広報部の高橋雅治さんにお話を聞きました。



お話しをしてくださったデルタ航空広報部の高橋雅治さん

Q 「スカイウィッシュ・チャリティー・プログラム」とはどのようなものですか?

A デルタ航空の国際ボランティア活動です。私たちのマイレージプログラム「スカイマイル®」のメンバーの方々からマイルの寄付を募り、社会貢献活動に携わる団体を支援しています。日本では、「チャイルド・ファンド・ジャパン」はじめ、国内外で活動する12のNGOやNPOが支援対象となるパートナー団体です。パートナー団体は、寄付されたマイルを特典航空券に換えて、職員や専門家を支援地域へ派遣したりしています。まだまだ私たちの宣伝不足もあるのですが、このチャリティー・プログラムは、実は10年以上の実績があります。大変良いプログラムなので、これからもNGOやNPOを支援して行きたいと考えています。

Q どのような方々が「スカイウィッシュ・チャリティー・プログラム」に協力されていますか?

A 協力くださる方々は年々増えています。例えば、海外への研修旅行の際に寄付してくれる学校が増えてきました。もちろん個人で寄付して下さる方も多くいます。航空会社としての特性を生かしつつ、私たちのお客様にも参加していただけるユニークなボランティア活動です。マイルの寄付を通じてできる社会貢献の第一歩として、できるだけ多くの人に協力して頂けるよう努力しています。

Q 「チャイルド・ファンド・ジャパン」をはじめパートナー団体であるNGOやNPOに何を期待されますか?

A このプログラムを有効に用いることで、パートナー団体の皆様の支援活動が活発になれば、私たちも嬉しく思います。デルタ航空はこれからも「スカイマイル®」メンバーにマイルの寄付の協力を呼びかけますが、それぞれの団体においては、マイルを使った支援活動の様子を多くの人に広めて頂けたら、更に協力の輪が広がると思います。そして、この「スカイウィッシュ・チャリティー・プログラム」が世界で貧困、飢餓、災害などで苦しんでいる多くの人たちの支援になるよう各パートナーと一緒に継続して取り組んで行きたいと考えています。

事務局より

- 5周年記念報告会のために来日するフィリピンからのゲストは、チャイルド・ファンド・ジャパンに寄付されたスカイウィッシュ・チャリティー・プログラムのマイルによる特典航空券を利用します。
- マイルの寄付について
チャイルド・ファンド・ジャパンのホームページにデルタ航空のバナーがあります。
どうぞマイルのご寄付をお願いいたします。 URL www.childfund.or.jp/



インフォメーション コーナー

お知らせ 5周年記念メールマガジン、配信スタート!

5周年記念のメールマガジンの配信が7月1日から始まりました。記念プロジェクトのホットな情報を隔週でお届けします。メルマガへのメッセージ投稿コーナーも予定していますので、どうぞお楽しみに! このメルマガは、メールアドレスのご登録のある支援者の方に配信中です。配信ご希望の方は、お名前と受信を希望されるメールアドレス、「メルマガ希望」とお書きになり、dsg@childfund.or.jp までメールをお送りください。

報告 「海外スタッフと語ろう!!フィリピンの今、ネパールの明日」イベントのご報告

6月5日(土)の午後、「海外スタッフと語ろう!!フィリピンの今、ネパールの明日」を東京・広尾の「JICA地球ひろば」でおこない、60名を超える方々にご来場いただきました。

チャイルド・ファンド・ジャパン全体の会議のために来日したフィリピンとネパールの事務局長が、各国の子どもたちがおかれている厳しい生活状況や実施しているプログラムの報告をしました。その後、スポンサーの方々より、手紙のやりとりを通してチャイルドたちの育てゆく過程に寄り添う喜びをお話いただき、会場はとても和やかな雰囲気に包まれました。イベントにご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



報告をした海外スタッフ
左から、田中真理子(ネパール事務局長)、リナムンサヤク(フィリピン事務局長)、ルセノ・トレス(フィリピン事務所会計担当)、アイリーン・サンチャゴ(連絡調整事務所プログラム担当、フィリピン駐在)

お知らせ チャリティ古本市のご案内

今年も企業との合同企画、「チャリティ古本市2010」を開催します。どうぞ、お出かけください。

開催日 (いずれも8月)

23日(月) / 日本たばこ産業(株) JTアートホール アフィニス
*コンサートを同時開催。

24日(火) / キーコーヒー(株)本社 NKビル1階

25日(水) / (株)日立ハイテクノロジーズ本社 地下1階カフェラウンジ

26日(木) / (株)永谷園本社 新橋桜ビル1階プレゼンルーム

JX日鉱日石エネルギー(株)は社内企画としてチャリティ古本市に参加します。

●詳しくは、チャイルド・ファンド・ジャパンのホームページでご案内しています。

URL <http://www.childfund.or.jp>

報告 ネパールに届けられた皆様で作成した教材

2010年2月3日から7日までネパールでのスポンサーシップ・プログラム開始を記念し、イベントを東京、銀座の福音センターで開催しました。会場に「ぬり絵」コーナーを設置、来場者の皆様に「ぬり絵」でネパール数字の教材を作成していただきました。この教材が無事、支援地域、ラメチャップ郡の学校に届けられました。今、子どもたちは毎日この教材を使って勉強をしています。「ぬり絵」にご協力くださった皆様、ありがとうございました。



数字を指差して学ぶ子ども

お知らせ 新しい支援プロジェクトを2件開始しました

フィリピン 「子どもが読書に親しむプロジェクト」
読書の大切さを学ぶプロジェクトです。

ネパール 「子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト」
ネパールの学校施設や教材など、学ぶ環境を整えます。
詳しくはホームページをご覧ください。また、今後のSMILESでもご報告いたします。 **URL** <http://www.childfund.or.jp>

報告 夏募金キャンペーンのご報告

6月28日よりご協力をお願いしております、「パラワン少数民族生活改善プロジェクト」の募金キャンペーンは、2010年7月30日現在、525口、3,067,065円のご協力をいただきました。皆様からのご協力に感謝申し上げます。目標の700万円の43.81%になりました。引き続き、皆様からのご協力をお願い申し上げます。

報告 「認定NPO法人」に再度認定されました!

チャイルド・ファンド・ジャパンは、皆様のご支援により、2010年8月1日付けで国税庁長官より「認定NPO法人」に再度認定されました。今回の認定期間は5年です。(2015年7月31日まで)皆様には引き続き、「寄付金控除など税の優遇措置」を受けていただくことができます。優遇措置の詳細につきましては、内閣府NPOホームページをご覧ください。

●内閣府NPOホームページはこちら
http://www.npo-homepage.go.jp/support/nintei_2.html

ご連絡 スリランカのスポンサーの皆様へプロジェクト名変更のお知らせ

スリランカの「ダスナ・チャイルド・デベロップメント・プログラム」と「ムンダラマ・チャイルド・デベロップメント・プロジェクト」のプロジェクトは、近隣のプロジェクトとともに一つに統合され、プロジェクト名が「プッタラム・エリア(Puttlam Area)」となりました。英語でお手紙をお書きになるスポンサーの皆様は、宛名を下記に変更してください。(住所に変更はございません)

Puttlam Area ChildFund Sri Lanka P.O.Box 2125
Colombo, Sri Lanka

ChIdFund Japan Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンはここに掲げるビジョン(目標)、ミッション(使命)に基づいて活動します。

ビジョン(目標)

すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成

ミッション(使命)

生かす生かされる国際協力を通じて子どもの権利を守る

チャイルド・ファンド・アライアンス ChIdFund Alliance

人種、宗教、性別、国籍を問わず世界の子どもたちに、効果的な支援活動をするためのネットワークで、子どもたちに向けたスポンサーシップ・プログラムを行う12団体から構成されています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月に加盟しました。

スマイルズ
＜チャイルド・ファンドより SMILES＞ 2010年 8月発行
〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5
特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン
理事長 深町正信(青山学院名誉院長) 事務局長 小林毅
TEL. 03-3399-8123 FAX. 03-3399-0730
E-mail: childfund@childfund.or.jp
URL: <http://www.childfund.or.jp/>

＜デザイン＞
モスデザイン研究所
＜印刷＞
有限会社東西印刷

